

カルメル

霊性センターニュース



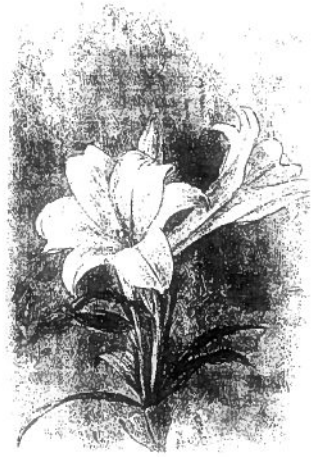
2015年3月

307号

## 目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
諸所の企画案内	33
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

# 心の泉





## 第二巻

### 第九章 すべての慰めの喪失

#### 5 熱心と乾燥

彼らの一人は、恵みの時に、「私は豊かな時に叫んだ、主よ、いつまでもこれを失わないだろう」(詩編 30・7)と言った。しかし恵みが消え去った時、自分の内で体験したことを次のように表現した。「あなたはみ顔を私からそむけ、私は不安に満たされた」(詩編 30・8)と。しかしその時にも彼は失望せず、さらに熱心に主に祈った、「主よ、あなたに向かって声をあげ、私の神なるあなたに乞い願おう」(詩編 30・9)と。ついに、その祈りは効果を得たので、自分の祈りが聞き入れられたことを証明して、「主は私の祈りを聞き入れ、私をあわれみ、助けてくださった！」(詩編 30・11)叫んだ。どのように助けてくださったのだろうか？彼は、「あなたは、私の涙を喜びに変え、私を歓喜で満たしてくださった」(詩編 30・12)と語っている。偉大な聖人たちの場合が、以上のとおりであったとすれば、時に熱心になり、時に冷淡になったとしても、弱く貧しい私たちが失望してはならない。なぜなら、神の恵みが私たちにとどまり、または去っていくのは、神のみ旨のままだからである。だから聖なるヨブは、「あなたは朝早く人を訪れ、その直後に試練をお下しになる」(ヨブ 7・18)と言っている。

## 聖テレジア生誕 500 年を祝って

日々神と親しく生きる —3月—



主よ、あなたは

私のために

この世に来られ、

私のために

あれほどのひどい苦しみを

お受けになりました。

～テレサ～

「回心して福音を信じなさい」との四旬節始まりの招きに応えようとそれぞれ今日までの日々を過ごしてきました。ご復活までの四十日間、復活のキリストを目指して歩みはじめた道のりはまだつづきます。

五百年ほど前の四旬節のある日、テレサは傷にまみれたキリストのご像に目をとめました。それを見て、魂がゆさぶられるほどの強い敬虔の情を覚えたときテレサは言っています。これほどの傷が物語る愛に、自分がどんなにひどい応えかたをしたかを悔いたのです。「あれほどの苦しみを忍ばれたのは私のため」と・・・心が引き裂かれる思いで「滝の涙を流し、もう主に背かない力を与えてくださるよう懇願しました。」これは自叙伝に記されている四十歳頃のテレサの回心です。「霊的な人々の母」テレサに導かれて、残る復活までの日々キリストと共に歩み続けましょう。

主よ、あれほどの苦しみを忍ばれたのは私のためでした。

では、私はあなたのために何をすることができるのでしょうか ～テレサ～

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

## 人を赦す (17)

くのり 彰

先月号において紹介した、カンボジアでの大量虐殺から逃れた一女性との一問一答の続きです。

質問：あなたは、へりくだり、私たちと共に苦しまれる神という考えを通して、キリスト教に引き寄せられたとおっしゃいました。この視点を今もなおお待ちですか。

私がキリスト教を選んだのではありません。私を呼んだのは、イエス・キリストです。私がした唯一のことは、イエス・キリストの呼びかけに応えることでした。私たちの宗教のもっとも力強い点は、この神が私たちと出会うために私たちの所に来られたということです。キリスト教の信仰は、人となった神という受肉の上に築かれています。これが、キリスト教の特殊性を形づくっていますが、多くのキリスト者がこの事実を忘れてしまいました。

質問：悪を行なった人を赦すことができましたか。

クメール・ルージュを赦すことは、大変苦勞しました。私の娘と体験した出来事から始めましょう。私たちは、私の兄弟、私の父、私の夫が殺された所へ行きました。娘は、父親を知りませんでした。この悲劇が起きた時、私は妊娠二か月だったからです。この場所へは仏教徒の友達たちが同伴してくれました。彼らは、残虐非道なこの出来事が罰せられると共に、同じことがひどいことをした人々にも起こるようにと言いながら、仏陀のお経を唱えていました。私と娘は、「主の祈り」を唱えていました。「父よ、私たちが、私たちに悪を行なった者を赦したように、私たちをお赦してください」。この時、クメール・ルージュを赦すかどうか私たちに問われていました。私たちの答えは、ノーでした。イエス・キリストの弟子でありながら、赦しは、キリスト者の生活の中心であると理解しながら、どうして私たちは、ノーとすることができたのでしょうか。

(続)

「これはわたしの愛する子、これに聴け」(マルコ 9, 7)。

今日の福音は、「イエスは、ただペトロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた」と、書き出しています。その山の上で、御変容と言われる秘儀が起こり、「これはわたしの愛する子、これに聴け」(マルコ 9, 7) との声が響いたのです。第一朗読にも、神は、アブラハムに「私が命じる山の一つに登り、彼を(独り子イサクを)焼き尽くす捧げ物として捧げなさい」と言われます。アブラハムは、人間の情、親の子をいとおしむ愛情には、とうてい把握することができない神の命令、これが本当に神からの命令なのかと疑うこともできる、いや、こんなことを神なら命じるはずがない、自分が聞いたと思った声は、空耳なのだ、神の計画がその双肩にかかっているイサクをいけにえにすることでその計画そのものを頓挫させようとする悪魔のささやきなのだ、と自分に言い聞かせようとしたのではないのでしょうか。しかし、その一方で、これは神の声でなかったと自分に思い込ませようとするのは、神よりも自分の子を大切にする人間の自然的情愛ではないのかとの思いが浮かび上がってきます。跡継ぎの息子をくださいと神に願い、そのためならどんな犠牲も払いますと、神の前に謙虚に願ったのも、自分の利己的関心、自然的欲望を満足させるために、神を利用するためではないのか。本当に、自分の利害のためにではなく、神を神として崇めているのか、このような純粋な信仰者の心の構えから来る自問の渦にアブラハムは巻き込まれていたのでしょうか。実に、アブラハムの信仰が、自己を中心にするものから真実な神への信仰へと飛躍するためには、この煩悶を潜り抜けてゆかなければならなかったのですが。しかし、この信仰の浄化も、もし、人間アブラハムが一人でできることだと思ったら、大きな間違いを犯します。このアブラハムの信仰の飛躍を支える、もっと大きな神のアブラハムへの愛があったのです。アブラハムに、独り子を捧げる自分の心の痛みを通して、遥かに垣間見られることを許された、一つの事実があったのです。これは、第二朗読がわたしたちに告げていることです。「わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方」、天の御父の姿です。この愛に支えられ、無自覚の内にもこの愛を遥かに証しするものとしてだけ、アブラハムは信仰の決断を実行できたのです。この御父のわたしたちへの愛の究極の出来事、わたしたちのすべての信仰の決断を可能とする出来事も、まさに、山の上、カルワリオで、十字架の上で、展開されるのです。ルカ 渡辺幹夫

## 四旬節第3主日

みことばのひびき

(ヨハネ2：13～25)

本日の福音で、ヨハネはユダヤの過ぎ越しの祭りの間にイエスがエルサレムの神殿においてになるエピソードを記しています。イエスは神殿を清める仕事を始めます。神殿の清めは、イエスの新しい生活となる宗教組織に対してどれほど凶兆になるかを示しています。ここでヨハネはイエスが神殿で人々が動物を売り、お金を両替しているのをご覧になって怒られたことを描写しています。イエスは鞭を作って動物を追い出し、両替人の台をひっくり返しました。

イエスの行動に驚いた神殿の高官たちは誰の権威のもとにこのようなことを行なっているのかイエスに説明を求めました。イエスはこの求めに対して直接にはお答えになりませんでした。この神殿を壊したら三日で建て直すと言われました、これは古い契約とその礼拝の形の終了を示しています。新しい契約はイエスの体の中にあり、新しい礼拝はイエスが井戸のところで婦人に言われた霊と真理の中にあります。ここではイエスは神殿にいる司祭やパリサイ派の人たちにメシアであるというご自分の主張を理解させるつもりでした。イエスの言葉の霊的な意味を理解できず、人々は神殿が46年間の厳しい労働の後もまだ建築中であるのにどうやって三日で建てられるのか訊ねました。イエスがご自身の体のこと、また栄光ある復活のことを話しているのを理解しませんでした。イエスは神の家に対する熱意に消耗し、礼拝の場所の神聖さに関して本当に案じています。イエスによれば、この礼拝の場所そのものが霊的に破綻していて、この世的な、物質的な物事により多く関わっているのです。

確かにイエスのこの行動は高官たちへの公然の挑戦であり、当然最終的にイエスの運命を定める敵意に彼らを導きました。しかし、イエスにとってこれは宗教的慣習のための主張であり、御父の家を守るために必要なことでした。神殿は本来神の家であり、祈りのための場所であるとイエスは彼らにはっきり言われました。これは弟子たちとそこに立っていた人々に反応しました。弟子たちはすぐに出来事の全体を理解したわけではなく、復活の後になって初めてその意味が分かりました。しかし、彼らはイエスから離れ去ることも質問することもしませんでした。イエスは彼らの指導者であり先生だったので、イエスを信じました。イエスは人々のことは信用しませんでした、イエスは彼らのことをよく知っていたからです。

多くの人たちにとってイエスは不思議のを行なう人、奇跡を行なう人にすぎないことを知っていました。イエスが彼らに奉仕や、犠牲、神の意志に委ねること、あるいは自分の十字架を担うことなどについて話すならば、彼らは理解しないで即座にイエスから離れていったでしょう。イエスの印は多くの人に神がイエスと共においでになるということを信じさせることはできましたが、イエスの神性、イエスが「神の御子」であるということを知らせることはできませんでした。神はイエスの中においてになり、イエスは神であると言うことを認めるならば、この世におけるイエスの存在に新たな理解をもたらし、み言葉の説教に新しい意味を与えたことでしょう。神殿の清めはメシア的な意志表示なのです。

健全なキリスト者的な霊性、あるいは宗教的な慣習は、神ご自身が沛定された神のなさり方であり、尊重しなければなりません。

(Sr. Paulina)



「神は、その独り子をお与えになったのどに、世を愛された」(ヨハネ 3, 16)。

今日の主日、福音は、ニコデモ、真理を探究するヘブライ人、神とそのしるしに開かれている人とのイエスの対話を提示しています。福音記者ヨハネは、初期キリスト者たちがこのような誠実な探求について実行した省察を、今日の中心的主張に要約します。「神は、御子を世に送ったのは、世を裁くためではなく、彼によって世が救われるためである」。第一朗読は、破局にまで至った民の不誠実さ、イスラエルの歴史への厳しい審判を表明する。しかし、このことは、神がその民を見捨てたことを意味しない。むしろ、このような民に対しても、神の家の扉は、常に開けられている、神の寛大さと忍耐を示している。第二朗読も、わたしたちに想起させることは、神の愛がなくなることは決してなく、わたしたちの救いの始まりは神のものであることである。わたしたちの功績ではなく、神の恵みが、わたしたちの良い業の始まりにもある。この神の愛に希望をおいて、わたしたちには新しく始めることが許されている。

さて、宇宙飛行士たちにとっては、宇宙体験が大きな転換点、新しい世界観、人生観への眺望の出発点になっている、これは、以前からよく言われてきたことです。最近読んだ一つのコラムも、「飛行士たちが日本語で伝える天空体験の数々は、等しく、地球と人間の尊さ、愛おしさを語る。『好人物』に備わる優しさの何割かは、どうやら宇宙から持ち帰ったものらしい」と閉じられていました。この記事の中で、二人目の日本人女性宇宙飛行士、山崎直子（なおこ）さんが、帰還後の著書「夢をつなぐ」で書かれていたことに触れ、「『どんな存在も、決してムダというものではなく、世の中にすべてのものには意味がある』、『どんなに悲惨な災害が人々を襲うとも、飢餓や貧困、差別や格差が厳然としてあろうとも、それも生きている世界は美しい』」と。これは、「悟り」体験の一つと言えるのではないのでしょうか。このような悟り体験に向けて、宇宙飛行士たちがどのような訓練、学習をするものかは、良くは知りませんが、何も修練することなく、物理的に宇宙空間に出て、把握できる体験だけのものではないでしょう。わたしたちが、日々の生活で体験して行く世界は、物理的にはすべての人が生かされているこの現実の世界、時間、空間に他なりません。しかし、現実をどのように見、解釈するかは、信仰の眼に見えてくるものによるのです。ルカ渡辺幹夫

## 四旬節第五主日 (ヨハネ 12:20-33)

イエスキリストの受難、死、復活によって示された慈しみ深い神の愛を自分自身に向けられたものとして受け留め、黙想し、それに応えようと決意して過ごす聖週間が間近かに迫っています。今日の福音では言い尽くし難い苦しみの中で御父に「御名の栄光を現してください。」と懇願されるイエスに出会います。その時天から聞こえてきた御父の声は、私たちに御父とイエスが単一であり完全に一致しておられることを確信させます。

福音を通して、今日わたしたちはイエスの死の意味と時の緊急性についてイエスが教え伝えたい思いを集散的にいただきます。ご自分を一粒の麦に喩えてイエスは弟子たちにお話しになります。「はっきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人はそれを保って永遠の命に至る。」ここでイエスが強調したいことは永遠の命の大切さ、尊さです。この一粒の麦は、確かに実際に死んでしまうわけではありません。それは全く新しい存在に形を変えるのです；根を張り、葉を茂らせ、実を結びます。イエスはここで、神の国で多くの新しい命を獲得するために捧げるご自分の命について話し、わたしたちにも、イエスのように、イエスのためにいつでも自分の命を差し出す用意をもって生きるよう望んでおられます、永遠の命を得るために。人の靈魂は不滅ですが、人は死ぬときその体は靈魂から離され永遠の命をいただくのです。この永遠の命は、イエスが十字架上で捧げてくださった命の実りです。一粒の麦の喩えは、真の命の愛は自分の命を他者のために差し出すものであり、この世においてはこの命の真の意味を理解することはできないことを教えています。その意味は神との一致のうちに見出せるものです。イエスのこの見解、生き方は弟子たちに受け継がれていきます。多くの弟子たちは神への愛のために殉教し、命を捧げました。ここで死は奉仕と考えられています。神の国の繁栄のために、自分の命を手放し、差し出すことです。

今日ご聖体をいただくとき、秘跡の恵みの中でこの世に対するキリストの勝利をはっきり見、確信することができます。イエスはその神の命を思う存分、ほしいままに与えるために聖体祭儀を定め、わたしたちを招いてくださっています。全てをよく整えてくださるイエスはわたしたちが最後までずっと、いつもイエスと共にいられるようにしてください。イエスは神とイスラエルの民の新しい契約であり、その愛、赦し、配慮、憐れみのうちに神のみことばを生きられた方です。四旬節の間わたしたちも愛の心で祈り、断食し、償いと施しをイエスのように行い、イエスを見出し、御父のうちにわたしたちの栄光を得るよう努めましょう。全き信頼と勇気をもって御父に祈りましょう。わたしたちが待ち望み焦がれている新しい命、喜び、幸せ、充足は神に全てを委託する心の中に見出されます。神が現存されている所神の住まいであるわたしたちの靈魂の天国で、永遠に神と合わされた者としてくださるのは、神の愛の強さと力なのです。

(Sr. Paulina)

「イエスがこのように息を引き取られるのを見て、『本当に、この人は神の子だった』と言った」(マルコ 15, 39)。

マルコによる受難の記述の頂点は、百人隊長が漏らした言葉、「本当に、この人は神の子であった」、この信仰宣言にあります。イエスの十字架刑の執行の現場責任者であったのですから、無論ローマ人です。イエスについては何かを聞いていたかもしれませんが、ほとんど何も知らない、自分とは無関係な人の処刑に立ち会う偶然の気まぐれ、何の感動もなく、職務として任務を遂行していたのでしょう。昨夜らいの、鞭打ち、ゴルゴダへの苦しい道行、十字架への釘付け、すべてを彼が陣頭指揮を執って実行されたのかもしれませんが。こんな自分の手の中で、目の前で、何の反抗的な態度も示さず、苦しみ、辱めら、しかも、死んで行った、この方を「本当に、この人は神の子であった」との宣言に行き着く心の変化の秘密を把握するのは、そう簡単なことではないようです。

十字架の上に死んでゆかれるイエス、その下に立ち尽くす百人隊長、この周りには、勝ち誇っている祭司長や律法学者たち、民衆たちの侮辱する言葉、罵り騒ぐ声が聞こえています。彼らも、イエスの言葉を幾度も聞き、その行いに幾度となく触れたのです。そして、自分たちこそ神についての専門家だ、神についてなんでも知っている、自分たちこそ神の掟に従い、神のみ旨を果たしていると自負していたのです、そして、この自負が、イエスは、神を冒瀆するもの、死に値すると断罪するまでに、少しも恥じることがない頑なな心に彼らを閉じ込めていたのです。それでは、弟子たちはどうしたのでしょうか。イエスと生活を共にし、その人となりに親しく接し、教えを聞き、奇跡の目撃証人でもある彼らは、どこに行ったのでしょうか。イエスがご自分を待っている運命を打ち明けたときには、熱心さから、一緒に死にましようとも断言した彼らでしたが、イエスを捨てて逃亡し、隠れてしまったのです。ファリサイ派の律法学者であった、使徒パウロは、百人隊長の後に続き宣言しています。「キリストは、・・・かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じものになりました。人間の姿で現われ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(フィリ<sup>ピ</sup> 2, 5-8)。わたしたちも恵みに支えられて十字架のもとに留まり、「この人は神の子である」と宣言できますように。 ルカ 渡辺幹夫

「いくらかは病人　いくらかは赤ん坊　そしていくらかは聖人」

石原淳子

表題の「いくらかは病人　いくらかは赤ん坊　そしていくらかは聖人」という語句は、作家堀江敏幸氏の著書の中にあつたもので、或る詩人を紹介しようとして、ほんとうに何気なく、さり気なくさしはさまれていたひと言なのですが、私はそれを目にしたとききづけになってしまい、暫し身動きができませんでした。そしてその語句をしっかりとくわえ込み心の内へ内へとおさめてしまいました。なぜそれほどに惹きつけられたのか、まるで生け捕りのようにして抱えもったもののその理由が自分でもわからずに、今、誰かに問うてみたい気持ちなのです。

よくよく心して読んでみればなんとも奇妙な表現です。病人と赤ん坊と聖人とをいくらかずつ持ち合わせているというのでしょうか、どのような人物像を思い浮かべればよいのでしょうか、とっさにはわかりません。考えてみてもはっきりしません。

言語を使用する私たちの或る限界といえますが、ひとつの言葉、単語に托するイメージの多様、意味理解の多様があり、人によってまた状況によってそれはさまざまに広がりをもちます。以前に聞いた話ですが、厳密に議論をするなら言語の持つ意味の範囲をあらかじめきちんと定めて、共通理解のものとしておくというのです。大いに納得したものでした。

しかし、今ここではそのような意味範囲をあえて定めずにそれぞれがどこまでも自由に理解してみて、自由にイメージしてみて「いくらかは病人　いくらかは赤ん坊　そしていくらかは聖人」という人物を描き出してほしいのです。

そういう人物に引き寄せられ捕えられたのはなぜなのかを一緒に考えてみてほしいのです。

病人とは何なのでしょう。いかなる様相、いかなる世界を指し示すのでしょうか。赤ん坊とは何なのでしょう。いかなる様相、いかなる世界を指し示すのでしょうか。聖人とは何なのでしょう。いかなる様相いかなる世界を指し示すのでしょうか。

際限なく広がるイメージをゆっくりとじっくりと追っていると、病人、赤ん坊、聖人に共通すると思われる要素が、何となくではありますが現れてくるよう

な気がしました。 社会通念というのでしょうか、最大公約数というのでしょうか、そういったものから何らかの形で逸しているというのか、自由であるというのか、そして無防備にさらされていて、孤独のままに放たれている。 ただ、あらためて思うのですが、やはり三つ合わさってこそその魅力なのでしょう。

私たちは社会の中で大人になるにつれていわゆる健康というものを身につけ、防備を身につけ、孤独を紛らすことを覚え、自分で自分を救うことさえ覚えていくようです。 当然ながらこれは大事なことです。 しかし一方、素直に、正直に、率直に、神さまだけを支えにして、神さまだけに導かれて生きてゆくのはとても難しいことを私たちは知っています。 その困難を悲しく思うこともあります。

主イエズスキリストは病人や罪びとを招かれます。 また時に幼子を抱きあげられご自分と同一視なさることを私たちは知っています。

いく度も問うてみます。 病人とは、赤ん坊とは、聖人とは・・・何なのでしょう。 知解、理解、了解、分解、・・・どれも追いつけない気がしています。

宮沢賢治の有名な詩「雨にもまけず風にもまけず」は、一人物のプロフィールを具体的に詳しく延々と列挙して、そういうものにわたしはなりたいと最後に結びます。 そういうものにわたしはなりたいに倣うとしたら、私は「いくらかは病人 いくらかは赤ん坊 そしていくらかは聖人」といわれるような人になりたいと思います。 人物像としては「雨にもまけず」の人ほどにもはっきりとせず、茫洋としていてわからないままですが、私の魂がこうありたいと願うものを満たしているように感じられてなりません。

そういうものにわたしはなって、人々の中に確かに位置し、人々としっかりと結び合って、ひたむきに生きてゆけたらと、私の魂は憧れます。

「いくらかは病人 いくらかは赤ん坊 そしていくらかは聖人」それにしてもどのような人なのでしょう。

# いのちの言葉 3月

「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、  
自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」

(マルコ8・34)

イエスは、ガリラヤの北部に向かう旅の途中、弟子たちに「わたしのことを何者だと思ふか」とお尋ねになります。すると、ペトロが仲間を代表して、あなたは久しく待ち望まれているメシア、救い主キリストです、と答えます。するとイエスは、これからご自分がどのように自らの使命を果たすつもりかをはっきり説明されます。つまり、民を解放するために、自ら代価を支払い、多くの苦しみを受け、殺され、三日後に復活するだろう、とおっしゃいます。一方、ペトロはそうしたメシアのイメージを受け入れることができません。当時多くの人がそうであったように、ペトロも、メシアは強い力を持ってローマ人から解放してくださると考えていたからです。そこでペトロは、イエスをいさめようとしますが、イエスは逆にペトロを叱り「あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」と言います。(マルコ8・31-33参照)

イエスは、エルサレムに向かって歩み始められます。今や、イエスが死に向かっていることを知らされた弟子たちは、どのような心境だったのでしょうか。弟子たちの前にイエスが置かれた条件は、明確で要求度の高いものです。

「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」

弟子たちは、イエスという先生に魅了され、心を燃やして彼について来ました。舟も、父親も、家も、ためらいなく後にして、彼に従って来ました。イエスが行う奇跡を目にし、彼の知恵に満ちた言葉を耳にしてきました。しかし今、イエスに従うためには、彼の生き方を全面的に受け入れなければならない、とはっきり示されたのです。それは、敗北、敵対、さらには殺人犯のみに課せられる重圧的な十字架の刑すらも意味していました。

「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」

キリスト者であるとは、もう一人のキリストとして生きていくことです。そして「へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順であった」(フィリピ2・8)という、イエス・キリストの心情を自分のものにすることです。また、キリストと共に十字架に付けられ、パウロと共に「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」(ガラテヤ2・20)と、言えるようになることです。イエスご自身が、私たちの内で生き、命を与え、よみがえり続けるのです。しかし、そこに至るには、どのようにイエスに従っている

ったらよいでしょうか。

最初の一步は、「自分を捨てる」こと、自分の考え方を頼りにしないことです。それは、「あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」とおっしゃったイエスが、ペトロにお求めになった一步でもありました。ペトロと同じように、私たちも時々、自分のものの見方に基づいて、勝手に自分が正しいのだと思ったりします。容易に手に入り、簡単に成功する道を求めたり、出世する人を羨んだり、努力なしに一致した家族、兄弟的な社会、キリスト教共同体が築かれることを夢見たりします。

「自分を捨てる」とは、神様の考え方の中に入っていくことです。それは、イエスが自ら示された道、一粒の麦が地に落ちて死ぬことによって実る道、人から受けるより与えることに喜びを見出す生き方、愛ゆえに命を与える道、一言で言うなら、自分の十字架を背負っていく生き方です。

「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」

病気、失業、家庭や仕事の問題を解決できない焦燥感、あるべき人間関係を築けなかった失敗感、世界の紛争を前にした時の無力感など、十字架には、幾千もの顔があります。私たちがあえて十字架を探しに行かなくても、まったく予想しない時に、思いもよらない形で、十字架は私たちのもとにやって来ます。

そのような十字架を、私たちが仕方なくいやいや受け入れるのではなく、積極的に「背負う」ようイエスは招いておられます。十字架をイエスと分かち合うために受け止め、苦しみの中で、彼と交わりながら生きていくよう招いておられます。事実、イエスは、ご自分の十字架を背負われた時、私たちの十字架もすべてその身に負われたのです。

「一人で十字架を運ぼうとするなら、その人はやがてその十字架に押しつぶされます。しかしイエスと共に、数人で運ぶなら、その十字架は軽く、負いやすいものです。」<sup>1</sup>

イエスと共に十字架を背負い、彼との満ち満ちた交わりに至り、もう一人のイエスとなっていくこと。イエスに従うとは、そういうことであり、そうしてこそ、私たちは彼の真の弟子になれます。そして、キリストにとってそうであったように、私たちにも、十字架は、「神の力」(コリントー1・18)、復活への道となるでしょう。その時私たちは、あらゆる弱さの中にも力を、暗闇の中にも光を、死の中にも命を見出すでしょう。なぜならそこにイエスご自身を見出すからです。

ファビオ・チャルディ神父

\*2015年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

<sup>1</sup>イジーノ・ジョルダニ著  
*La divina avventura* (「聖なる冒険」)  
チッタ・ノーバ社 ローマ 1966年 P.149ss

連絡先：フォコラーレ  
03-3707-4018/03-5370-6424  
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp  
ホームページ:フォコラーレで検索  
<http://focolare.world.coocan.jp/>

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (89)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### わたしは耳が聞こえない者ではありません (続き)

この証人は、耳が聞こえないのかよくたずねたそうですが、くだんの聖人の方は、よくこう言ったそうです。

「黙りなさい。私は耳が聞こえない者ではありません。私は今、自分にもよく分からないことの中にいるのです」。

そしてこう続けています。「彼は、主の事柄に関わったため恍惚状態にあったのだと、できる限りの仕方で、弁解しました。そして、身に着けていたシリス（苦行用の下着）を押しつけるのが常だったそうです。それは、その痛みによって我に返るためでした。またこの証人は、しばしば、くだんの聖人のミサを手伝っていたのですが、ミサの時、彼がよく肩をすくめ、顔色が変わり、恍惚状態に陥っていたのに気づきました。この証人には、彼がいつもより身長がずっと増していたように思われたということです」。

セゴビアで聖人と一緒にいたイエスのバルナバ修士は、時々、話の方に注意を向けるために、聖人が次のようなことをしなければならなかったことを思い出しています。つまり、「だれかと散歩していた時、こっそりと手を丸め、壁とか、その場所をげんこつで叩いていました。それは、その痛みによって話に自分の注意を向けさせるためでした。そのため、手の指の関節がおかしくなっていました。この証人は、そのことを時々、彼に注意しました」。





## ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（185）



### 体に対する敬意と尊敬

非常に多くの仕方、私たちは体を使い、また酷使しています。イエスが私たちの所へ体をもってやって来たことや神の栄光へ体をもって上げられたことは、私たちの体や他者の体を、大きな敬意と尊敬をもって取り扱うように、私たちに呼びかけています。

神は、イエスを通して、私たちの体を、神が住もうために選ばれた聖所としました。それゆえ、体の復活への私たちの信仰は、私たち自身の体や他者の体を、愛をもって世話するように、私たちに呼びかけているのです。私たちが他者の傷に包帯をし、永遠の命へと定められている他者の体の回復のために働くならば、私たちは、人間の体の聖性に対して証しをしているのです。  
(1127)

### 霊的体

復活において、私たちは霊的体を持つことでしょう。私たちの自然の体はアダムから来ましたが、霊的な体はキリストから来ます。キリストは、滅びに属さない新しい体を私たちに与えてくれる第二のアダムです。パウロが、「わたしたちは、土からできたその人（アダム）の似姿になっているように、天に属するその人（キリスト）の似姿にもなるのです」（1 コリ 15・49）。

霊的体は、キリストに似た体です。イエスは、私たちと死ぬべき体の命を分かち合い、それによって私たちが霊的体の命をも分かち合うことができるように、やって来られたのです。パウロは、「単なる人間の本性は、神の国を受け継ぐことはできません」（1 コリ 15・50）と言っています。イエスは、私たちの朽ちるべき本性が朽ちることのない本性を着、死ぬべき本性が死なない本性を着るために、やって来られたのです（1 コリ 15・53 参照）。このように、私たちの霊的命が、完全に明らかになるのは、体においてなのです。  
(1130)

九里 彰訳

# 跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

## << Communications (時事通信) >>

### 新しいイベリア管区、第一歩を踏み出す

2015年2月12日

カルメル会の新しいイベリア管区は既に現実のものとなっています。実際このスペインの新管区は、カスティージャ、ブルゴス、アンダルシア、アラゴン・ヴァレンシア、カタロニアの管区が合併してできたもので、スペイン、ラテンアメリカ、アフリカの300名のカルメル会士で構成されています。

ミゲル・マルケス神父は、アビラの拡大総会で新管区長に選出され、新管区設立が祝われました。カルメル会総長、ザベリオ カニストラ神父が、この総会の司会をしました。

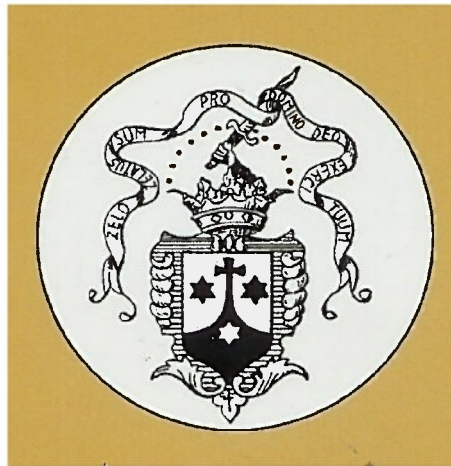
ミゲル・マルケス神父は、彼らが「敗北者心理により引きずられないよう」求めました。なぜなら、「勇敢な靈魂」によって、幸せの源泉につながることはより良いことであり、また、「私たちの人生は、自分たちではなく、私たちが宣教することにある」。「方針について多くが語られた時」、彼は「最上の方針は聖テレジアの主イエスへの深い愛を模倣することである」と指摘しました。

拡大総会は、管区顧問会のメンバーを次のように選出しました。第一顧問はペドロ・トマス・ナバハス神父、第二顧問はアウグスティン・ボレル神父、第三顧問はフランシスコ・ベルベル神父、第四顧問はホセ・フランシスコ・サントルフィナ神父でした。拡大総会では、召命、養成、宣教、統治、財務、改革、生活規範と、課題別に、さまざまな委員会が創られました。また、様々な報告書が、各分野の計画立案の文書として利用されました。

さらに、拡大総会では、内部体制、出版局の状況、大学、広報手段などの課題が取り上げられました。また靈的生活や共同体生活に関する事柄も話し合われました。

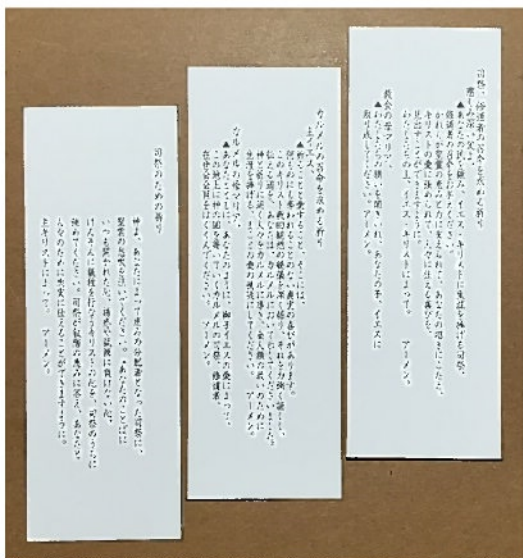


# カルメル会の企画案内



# イエスの聖テレジア生誕500周年記念

## 「祈りの葉」頒布のご案内



イエスの聖テレジア生誕500周年を記念して祈りの葉をカルメル在世会で作成しました。上記のデザイン6枚を1セットとして袋に入っています。

裏には「司祭、修道者の召命を求める祈り」「司祭のための祈り」が印刷されています。イースターのプレゼント、新受洗者へのお祝い、愛読書や祈りの本の葉としてご愛用いただければと思います。

# イエスの聖テレジア生誕 500 周年

## 跣足カルメル修道会

### 1. 【カルメル会四旬節講話シリーズ】

テーマ：「現代における預言者 聖テレジア -聖女のカリスマを次世代に伝える-」

場所：東京・上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分）

日時：下記の各日曜日 午後2時半開始 入場無料（講話の後、主日のミサ）

2月22日 松田浩一（カルメル会）

「キリスト者一致に対するテレジア的預言」

3月1日 片山はるひ（ノートルダム・ド・ヴィ）

「聖テレジアの靈的母性」

3月8日 九里 彰（カルメル会）

「修道生活の改革者 聖テレジア」

3月15日 中川博道（カルメル会）

「21世紀のために生まれた聖テレジア」

3月22日 今泉 健（カルメル会）

「テレジアに学ぶ宣教の精神」



### 2. 【特別講演会】

マクシミリアーノ・エライス神父（OCD）

（スペインのカルメル会司祭。1960年司祭叙階。神学博士。

イエスの聖テレジアと十字架の聖ヨハネの専門家。

バレンシアの神学校と、アビラの「聖テレジア・十字架の聖ヨハネ国際センター」

（CITeS）の教授。CITeSの初代所長。「解放の体験としての祈り」、「友情の歴史としての祈り」など著書多数）

#### ■一般信徒対象

3月21日（土）午後2時～4時 京都・河原町教会 ビリオン・ホール

3月28日（土）午後2時～4時半 東京・上野毛教会聖堂 講演後ミサ

テーマは未定。通訳：京都は松田浩一神父（OCD）、上野毛はホアン・カトレット神父（SJ） 入場無料、献金歓迎。連絡不要。

#### ■奉献生活者対象

3月23日（月）午後2時～4時 東京・四ツ谷駅前のニコラ・バレ

テーマは未定。通訳：ホアン・カトレット神父（SJ）

入場無料、献金歓迎。定員100名。希望者は以下に連絡してください。

修道会宣教会事務局：S r. 桜本 TEL 03-5632-4448

### 3. 【アビラ研修巡礼旅行】

期間：8月9日（日）～18日（火）9泊10日

対象：カルメル会の靈性に関心のある人。アビラでの国際聖テレジア大会（10日～14日）に参加した後、ファティマへ巡礼。

同行司祭：松田浩一神父（カルメル会）

参加費用：約45万円 参加人数：20名

※希望者は、宇治修道院の松田神父へ連絡してください。

TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457

## 上野毛霊性センター ～2016年3月

黙想企画 \*\* 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

### 1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2015年 4月 2日(木)夕食～ 5日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

2016年 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2015年12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

### 2. 日帰り一日黙想会 10時～16時

〔聖人たちを支えた神のことば〕 福田正範神父

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

2015年

4/17 (金)、4/30 (木)、5/15 (金)、5/28 (木)、6/19 (金)、

6/25 (木)、7/10 (金)、7/23 (木)、9/3 (木)、9/18 (金)、

10/30 (金)、11/5 (木)、11/20 (金) 12/3 (木)、12/18 (金)

2016年

1/15 (金)、1/28 (木)、2/12 (金)、2/25 (木)、3/11 (金)

\*申し込みは、3か月前より受付致します。

### 3. 奉献生活者のための黙想会

8月 1日 (土) 18時～ 8月10日 (月) 朝 福田正範神父

8月12日 (水) 18時～ 8月21日 (金) 朝 福田正範神父

10月13日 (火) 18時～10月22日 (木) 朝 福田正範神父

12月27日 (日) 18時～2016年1月5日 (火) 朝 福田正範神父

### 4. 青年黙想会(男女) 福田正範神父・カルメル会士

4月24日 (金) 16時～26日 (日) 16時

11月13日(金) 16時～15日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)

9月25日(金) 16時～27日(日) 16時

6. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2016年

3月18日(金) 18時夕食～20日(日) 16時

7. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

5月29日(金) 20時～31日(日) 16時「わたしは神をみたい」

11月 6日(金) 20時～ 8日(日) 16時「いのりの道」



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。  
間違いを避けるためなるべく、FAX・はがき・Eメールで連絡して頂ければ幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

# 聖週間の典礼に参加するための黙想会

聖なる過ぎ越しの三日間の典礼に参加し、黙想しましょう。

\*日時: 4月2日(木)夕食~5日(日)朝食後 10時まで

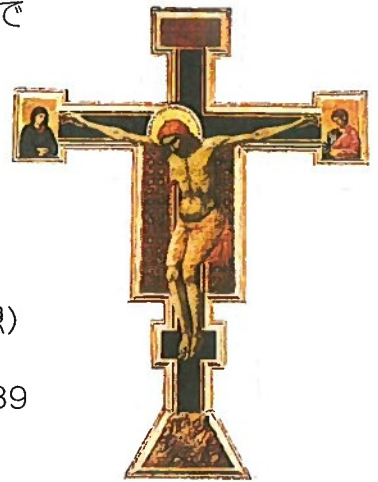
2日(木)は、午後3時より入室できます

\*費用: 一泊¥5000(一泊から可)

\*お問合せ・お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)

電話: 03-5706-7355 FAX: 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp



## \*\*\*\*\*上野毛教会聖週間の典礼ご案内\*\*\*\*\*

4月2日	聖木曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		19:30	主の晩餐の夕べのミサ 洗足式
4月3日	聖金曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		15:00	十字架の道行
		19:30	主の受難
4月4日	聖土曜日	7:00	読書の祈り・朝の祈り
		18:30	復活の聖なる徹夜祭 洗礼式
4月5日	復活の主日	7:00	8:30 10:30 18:00





# カルメル青年黙想会

## アビラの聖テレジア



- 日時 : 4月24日(金) 16時 ~ 26日(日) 16時  
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)  
対象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)  
定員 : 20名  
費用 : 一般 10,000円          学生 7,000円  
締切 : 4月17日(金) <必着>  
指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)  
電話 : 03(5706)7355  
FAX : 03(3704)1789  
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会

2015年5月29日（金）20時～31日（日）16時

わたしは神をみたい



**神の似姿に創られた**

**私たちを捜す神のまなざしに出会い**

**私たちを捜し続けられる 神を迎え入れるために**

**しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？**

- 指導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書、『いのりの道—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師と共に』  
聖母文庫（黙想の家で購入できます、）筆記用具、パジャマ
- 参加費： ￥12000
- 場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

158-0091 東京都世田谷区上野毛2-14-25 TEL 03-5706-7355

申し込み方法： FAX 03-3704-1789 または、ハガキにて。

Eメール：[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

「カルメル」  
今日の靈性・冬号  
四旬節講話特集号



カルメル 2014 特集号

2014 冬 No.355

「イエスの聖テレジアの  
カリスマとその広がり」

● 目次 ●	イエスの聖テレジアのカリスマと後代への影響	渡辺幹夫	2
● 二人のテレジア ●	—— アビラのテレサとリジューのテレトス	伊従信子	20
● テレジアと出会った十字架のヨハネ ●	テレジアと出会った十字架のヨハネ	九里 彰	33
● テレジアのカリメルの中の三位一体のエリザベト ●	テレジアのカリメルの中の三位一体のエリザベト	松田浩一	46
● エディット・シユタインとテレジア ●	エディット・シユタインとテレジア	須沢かおり	55
● 出会いと靈的絆 ●	—— 出会いと靈的絆	須沢かおり	55
● 目次 ●	◎ 目次 ◎		
● へ今年の特集 聖テレジアと他の聖人たち ●	へ今年の特集 聖テレジアと他の聖人たち		
● 自分の内に生きることなく生きる ●	自分の内に生きることなく生きる	九里 彰	3
● テレジアの詩とヨハネの詩 ●	—— テレジアの詩とヨハネの詩	九里 彰	3
● 二人の聖テレジア ●	二人の聖テレジア	伊従信子	9
● 神の慈しみをとこしえにうたい、主のまことを世々に告げよう!! ●	—— 神の慈しみをとこしえにうたい、主のまことを世々に告げよう!!	伊従信子	9
● エディット・シユタインと聖テレサ ●	エディット・シユタインと聖テレサ	須沢かおり	18
● 現代における親想生活の意味 ●	—— 現代における親想生活の意味	須沢かおり	18
● 風に吹かれて ●	風に吹かれて	原 造	25
● 聖テレジアによる祈り ●	聖テレジアによる祈り	ポリン・フェルナンデス	28
● 挿者 ●	挿者		
● ルイとゼリー ●	ルイとゼリー	中山眞里	34
● 幼いイエスの聖テレーズの両親 ●	—— 幼いイエスの聖テレーズの両親	中山眞里	34
● 西行と芭蕉の靈性 ●	西行と芭蕉の靈性	田畑邦治	41
● 伊勢における交歓 ●	—— 伊勢における交歓	田畑邦治	41
● 「あなたは、とこしえの祭司」 ●	「あなたは、とこしえの祭司」	高橋重幸	47
● ローマでの叙階式 ●	—— ローマでの叙階式	高橋重幸	47
● 神が慈しまれた道 ●	神が慈しまれた道	奥村一郎	53

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円（+送料140円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

【一般のための黙想】 ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2015年	5月23日(土)～24日(日)	主よ私たちにも祈りを教えてください	中川博道 神父
	9月5日(土)～6日(日)	イエスと友情を生きる「聖テレジアに学びながら」	中川博道 神父
	11月28日(土)～29日(日)	日常生活の中でイエスと共に生きる	中川博道 神父
2016年	1月9日(土)～10日(日)	私が洗礼を受けたこと	中川博道 神父

【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)				
2015年	4月11日(土)	中川博道神父	9月12日(土)	渡辺幹夫神父
	5月9日(土)	渡辺幹夫神父	10月10日(土)	渡辺幹夫神父
	6月13日(土)	渡辺幹夫神父	11月14日(土)	中川博道神父
	7月11日(土)	中川博道神父	12月12日(土)	渡辺幹夫神父
2016年	1月9日(土)	中川博道神父	2月13日(土)	渡辺幹夫神父
	3月12日(土)	渡辺幹夫神父		

・ 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

2015年	4月15日(水)	聖テレジアと共に、復活したイエスを探して	中川博道 神父
	5月13日(水)	ファチマの聖母	松田浩一 神父
	6月17日(水)	教会の中に生きる聖テレジア	渡辺幹夫 神父
	7月15日(水)	マリアと共にイエスを信じ愛する道	中川博道 神父
	9月16日(水)	キリスト教の霊性	松田浩一 神父
	10月14日(水)	聖テレジアの過ぎ越し	渡辺幹夫 神父
	11月18日(水)	観想と活動	松田浩一 神父
	12月16日(水)	人となられた神にともなわれて	中川博道 神父
2016年	1月20日(水)	主の慈しみは、新たになる	渡辺幹夫 神父
	2月24日(水)	生きていることの見直し	中川博道 神父
	3月16日(水)	キリストの過ぎ越し	松田浩一 神父

・ 四旬節の黙想 (午後5時～午後4時)

2015年	2月28日(土)～3月1日(日)	渡辺幹夫 神父
2016年	3月5日(土)～6日(日)	中川博道 神父

・ 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

2015年	12月13日(土)～12月14日(日)	松田浩一 神父
-------	---------------------	---------

・ 聖テレザの黙想 (午後5時～午後4時)

2015年	9月30日(水)～10月1日(木)	伊従信子師
-------	-------------------	-------

【奉献生活の霊的セミナー】 (午後1時～午後2時)

2015年	5月3日(日)～5月6日(水)	中川博道神父
		松田浩一神父
		渡辺幹夫 神父

カルメル青年の集い (午後5時～午後4時)

2015年	4月28日(火)～4月29日(水)	主よ私はあなたのもの、	松田浩一神父
		私のすべきことは何ですか？	
	11月22日(日)～11月23日(月)		松田浩一神父

【一般のためのカルメルの霊性入門】 (午後5時～午前4時)

2015年	10月14(火)～10月15日(水)	イエスのテレサ生誕500年閉会式	松田浩一神父
-------	--------------------	------------------	--------

奉献生活者の黙想 午後5時～午前9時  
2015年 7月31日(金)～8月9日(日)  
8月21日(金)～8月30日(日)  
12月27日(日)～1月5日(火)

中川博道 神父  
松田浩一 神父  
松田浩一 神父

### 祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月2日(木)～4月5日(日) {講話なし、各食事つき}

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(木)～12月25日(金) {講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会, 個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、

お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、

その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457  
E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



## イエスの聖テレジア生誕 500 年記念 カルメルファミリー国際交流会とファティマ静修の旅 2015年8月9日 (日) ~8月18日 (火)

**カルメル・ファミリーの霊的一員として、一般信徒の皆さんも参加できます。**

### ☆ カルメルファミリー国際交流会 **スペイン・アヴィラにて開催**

- 8月9日 午前 日本出発
- 8月10日 午後7:00 アビラ市での開催式
- 8月11日~13日、 テレジア的カリスマの国際交流と 祈りのひと時
- 8月14日午前10:00 閉会式のミサ： 既足カルメル会総長カニストラ総長司式

### ☆ ファティマでの静修 **ファティマ大聖堂横のカルメル会黙想の家にて**

- 8月14日~8月17日 ファティマの聖母のご保護のうちに静修
- 8月18日 お昼ごろ: 帰国

**☆参加をご希望の方は、下記の連絡先へご連絡下さい<申込期限:4月5日(日)まで>。**

参加希望者は下記へ FAX・手紙・Eメールでお願いいたします。

<記入事項: 名前・年齢・所属教会・連絡先・イエスの聖テレジアとの霊的なつながり>

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会修道院

担当 松田浩一神父: FAX 0774-32-7457 [✉teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

※ カルメル在世会会員の方は、ご所属の共同体会長へ ご連絡ください。

※ 尚、先月までのご案内におきまして、2015年 8月10日~8月14日となっておりますが、日程変更となりました。

# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## — 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに於けるものであるので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 名

【開催日】 2015年 1月30日(金)～31日(土)

2月13日(金)～14日(土)

3月 6日(金)～ 7日(土)

5月 1日(金)～ 2日(土)

5月13日(金)～14日(土)

6月19日(金)～20日(土)

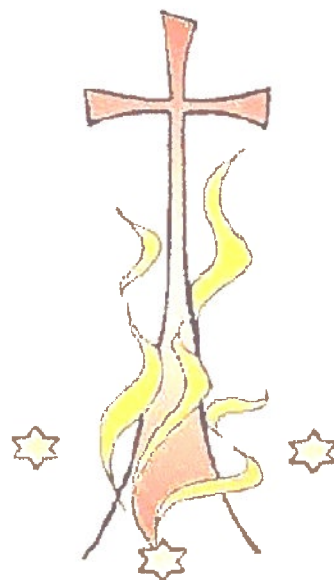
7月24日(金)～25日(土)

9月 4日(金)～ 5日(土)

10月 2日(金)～ 3日(土)

11月 6日(金)～ 7日(土)

12月 4日(金)～ 5日(土)



(毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)

【参加費】 各回 6,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457

E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

## 靈性センター

北陸地区

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読 短い講話

14:30～ベネディクション 聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル靈性センター



〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 244 - 7788



## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ  
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)



# 奥村一郎選集

## 追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を  
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



### 慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



### 多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



### 日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい掟

第4巻



### 日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



### 現代人と宗教 解説・鶴岡實雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/屈辱/「新しい人」としての真人

第6巻



### 永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



### カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



### 神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



### 奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

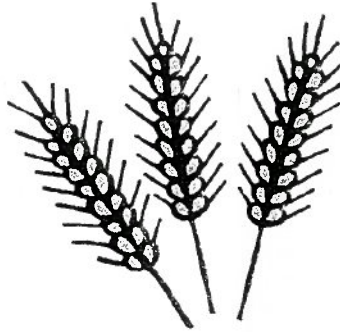
カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

### 2015年予定

- M1 2/7 (土) -2/13 (金) 宝塚売布・女子御受難会
- N1 2/23 (月) -3/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K2 3/14 (土) -3/20 (金) 東京・小金井・聖霊会
- N2 4/30 (木) -5/6 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K3 6/12 (金) -6/14 (日) 東京・小金井・聖霊会 2泊3日
- T1 7/20 (月) -7/26 (日) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K4 9/19 (土) -9/25 (金) 東京・小金井・聖霊会
- N3 10/27 (火) -11/2 (月) 滋賀唐崎・ノートルダム
- T2 11/17 (火) -11/23 (月) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K5 12/12 (土) -12/18 (金) 東京・小金井・聖霊会

## 真命山 2015年 — 祈りの集いのご案内

祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間のテーマ

### 「イエス、マリア、ヨセフが祈られた詩編」



- 1月 8日 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に  
適う人にあれ。」（ルカ 2,14）詩篇 1. 34. 117. 19. 150
- 2月 12日 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を  
信じなさい（マルコ 1,15）詩編 51. 21
- 3月 12日 過越祭のハレルの詩編：113.117.136
- 4月 9日 復活祭の詩編：2.110.118
- 5月 14日 詩編 45.89（ルカ 2,46-55）
- 6月 11日 詩編 145.146.148
- 7月 9日 詩編 126.130
- 8月 休み
- 9月 10日 詩編 23
- 10月 8日 詩編 42
- 11月 12日 詩編 137.147.150
- 12月 10日 詩編 来られる主を迎えて：72.96（ルカ 1,68）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。  
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下(予定)の土曜日、  
9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、  
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラムの詳細は別途公表。

夏学期: 4/11, 4/18, 5/16, 5/23, 5/30, 6/6, 6/13, 6/27, 7/11, 7/25, 9/5, 9/12, 9/19

冬学期: 10/10, 10/17, 10/24, 10/31, 11/7, 11/14, 11/21, 12/5, 12/19,

2016年 1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体。12月30日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、4月28日、8月11日、12月22日は休み。8月25日は、クルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月4日は休み。

・「水曜日ミサ後の黙想」18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。  
どなたでも。但し祝日、8月全体、12月30日は休み。

・「通う霊操」8月22日(土)～8月30日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

2月28日(土)10時～3月1日(日)14時(上石神井)、7月4日(土)10時～5日(日)14時(上石神井)、

11月28日(土)10時～29日(日)14時(上石神井)。1泊2日。7,000円程度。事前申込み要。

[関西]9月26日(土)13時30分～27日(日)15時(宝塚市)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。

2月7日、3月14日、4月11日、5月16日、6月6日、7月11日、8月8日、9月5日、10月10日、11月7日、12月5日、2016年1月9日、2月13日、3月5日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。但し祝日、4月27、30日、7月30日、8月全体、11月2日、12月24、28、31日、2016年3月24日は休み。

●坐禅接心

4月24日(金)20時20分～5月1日(金)8時40分

6月19日(金)20時20分～21日(日)8時30分

8月8日(土)20時20分～15日(土)8時30分

9月19日(土)20時20分～22日(火)8時30分

10月31日(土)20時20分～11月3日(火)8時30分

秋川神冥窟。1泊2,400円(+暖房費)程度。事前申込み要。

[関西]5月9日(土)13時30分～10日(日)15時、7月30日(木)17時45分～8月5日(水)15時。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。

4月18日(土)、6月27日(土)、2016年1月24日(日)。

10月25日(日)、会員未加入の方にもオープン集い。13時30分から。岐部ホール4階、404。

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

### リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2015年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

02/28-3/1 ●黙想会(上石神井)

03/06 人間の苦悩— 悪とは何のためか

03/13 死— その受け入れと克服

03/20 人生の完成— 神の内に生きる

03/27 聖母マリア— 信じる者の原型

04/05 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)

4/10 信仰の道— 人生の意義を問う

4/17 聖書の人間像— 人間の現状と使命、

4/24 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること

5/1 理性と神認識の道— 世界内存在を通して

5/8 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味

5/15 歴史と信仰— 神との出会い

5/22 内なる神— その「似姿」としての人間

5/29 新約聖書の神理解— 主なる父

6/5 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ

6/12 救い主の役割— 人類の待望

6/19 神の国— イエスの告げるメッセージ

6/26 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える

7/3 イエスのたとえ話— 神の働きを語る

7/4-5 ●黙想会(上石神井)

7/10 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に

7/17 イエスは誰か— イエスの自己理解

7/24 最後の晩餐— 自分を与えるイエス

7/25 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)

7/31 ○休み

8/7 イエスの受難— その史実と意図(上智大学内クルトゥルハイム2階)

8/4 ○休み

8/21 イエスの死— その救済的意義(上智大学内クルトゥルハイム2階)

### リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[教会]

02/28-3/1 ●黙想会(上石神井)

03/03「聖徒の交わり」— 世界の只中のキリスト

03/17 人間と世界の究極の未来 — 終末の約束

03/31 信仰者の原型 — 聖書に見られるイエスの母

04/05 ◆復活祭ミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)

[人生の基礎づけ]

4/7 人間の尊厳 — 自律と自己超越

4/21 人生の目標 — 神の「似姿」としての真なる人間

5/19 人間以外のものの意義 — 世界の使用と聖化

6/2 創造・歴史・救い — イエスという中心

[倫理的行為]

6/16 行為の規範 — 人間らしさと神の呼びかけ

6/30 自己実現 — 責任と自由

7/4-5 ●黙想会(上石神井)

7/7 性格の形成 — 自己受容と善への憧れ

7/21 人間の弱さ — 罪とゆるし

7/25 ■感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定)

8/4 ○休み

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

# いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

## いのちの泉へ

### すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、  
キリスト者としての霊性を養うための  
講話と沈黙の祈りで構成された集いです

東京

3月28日(土) 「イエスの祈り」

4月25日(土) 「主は復活された！」

午後2時 ～ 午後5時30分位まで

講話・祈り・質問・分かち合い

講話 伊従信子

\*\*\*\*\*

お申し込み・問い合わせ：ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

\*\*\*\*\*

京都

3月10日(火)、4月7日(火)

\* 13時半～ 河原町カトリック会館3階

\* 『いのりの道をゆく』 担当：伊従信子

\* 祈り：3時～3時半 カテドラル地下、都の聖母聖堂にて

3月28日(土) 13時半～15時 京都NDV

\* 福音書分かち合い 担当：中山 真里

4月11日(土) 13時半～15時 京都NDV 担当：伊従信子

\* 『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』

4月11日(土) 14時～16時 河原町カトリック会館7階

『いのりの道を行く』 担当：中山真里

4月18日(土) 13時半～15時 京都NDV

\* 福音書分かち合い 担当：中山 真里

京都お問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ

〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4

TEL・FAX(075-462-3525)

email : [ndvmari@hotmail.com](mailto:ndvmari@hotmail.com)





## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2015年 4月29日(水)～ 5月7日(木)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月26日(月)～ 11月3日(火)
- ④ 12月27日(日)～ 2016年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2015年 2月6日(金)～ 2月8日(日)
- ② 2月27日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月20日(金)～ 3月22日(日)
- ④ 6月19日(金)～ 6月21日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月27日(金)～ 11月29日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2015年 5月25日(月)～ 6月2日(火) 澤田豊成 師 (ハカ会)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご  
相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
サダナⅡ	3/18(水)17:30- 3/22(日)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5802-3844
入門A	4/12(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
リピーターの 会	4/24(金)17:30- 4/27(月)15:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨセフ山の家 (栃木県那須郡那須町)	若山美知子※
自己を知る  *1泊2日× 2=合計4日	5/9(土)9:30- 10(日)17:00  5/16(土)9:30- 5/17(日)17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
入門B	5/24(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
サダナⅡ	5/27(水)17:30- 5/31(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr 比嘉	
フォロー アップ	6/7(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
入門C	7/5(日) 9:30-17:00	Fr植栗	同上	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナⅠ(入門A、B、C) = 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす

◆サダナⅡ = Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される

◆フォローアップ = サダナⅠを終えた方

◆入門C = 入門Aまたは入門Bを終えた方



# 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00  
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

4月9日（木）『靈魂の城』第六の住居・第九章

6月11日（木）、7月9日（木）、9月10日（木）

11月12日（木）、12月10日（木）

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。  
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

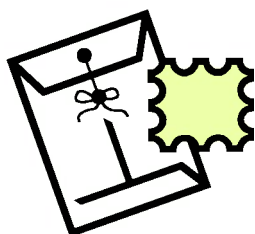


九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*



ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

灰の水曜日に某修道院を訪れた。講話とミサの後、修道院の方で昼食を準備してくださった。大斎日なので、簡単なものであったが、食事の場所は、何とサクリスチア（香部屋）であった。工事のために、いつも使っている部屋が使えなくなっていたからであった。

木彫りの十字架像の前に置かれたテーブルに座りながら、イエスさまの姿を仰ぎ見つつ食事をした。若い時、尊敬する恩師と差し向かえで食事をしたことがあったが、その時の食事は黙想会の時のようになった。静けさの中で、日頃、がつつと犬猫のように食事していた自分に気づかされ、恥ずかしい思いをした。今回は、その時以来の、イエスさまと二人きりで食事をするという貴重な体験であった。

神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。(ロマ 14・17)

(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「4月号」製本日

[3月31日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171